

# 平成28年度 ワークセンター夢の樹就労移行支援 事業実績報告書

## 1 総括

就労移行支援事業は2年間の限られた期間で一般就労を目指す事業であり、期間を有効に活用するためには個々の状況に合わせた計画的な訓練、求職活動等が必要である。自立支援法で新たにサービス体系に加えられた新しい事業ということもあり、平成20年度に事業を開始した当初は試行錯誤の連続であった。しかし、利用基準を設定し、個別の訓練計画に基づいたプログラムを導入した平成22年度以降は事業が軌道に乗り、以降65%の利用者が期間内に就労し、安定した成果をあげてきている。28年度も順調にその成果をあげ、年度当初在籍した9名中4名が就職し、その他の利用者についても計画通り訓練が進んでいる。また、26年度の就職者の内、直後の離職者2名という反省に立ち、27年度以降は職場選択の際のマッチングに力を入れて支援を行っており、このことが職場定着にも効果を上げていると感じている。

一方、年々就労の実績をあげることは、同時に二つの課題を生じさせることに繋がる。一つは、定着支援の増加であり、もう一つは利用者の確保である。

定着支援については、初期段階の定着支援を移行支援事業所がおこない、概ね6か月を基準として就労の安定後、就労支援センターへその役割を引き継ぐという形で実施してきた。このように役割分担を明確にし、計画的な定着支援を行うことで、22年以降就職した37人の定着率は約80%となっている。障害者雇用促進が社会的情勢のなか、定着支援の必要性、重要性はますます高くなると想定され、今後どのように支援を充実させていくか大きな課題と考えている。

もう一つの課題である、利用者の安定確保についてであるが、就労支援センターの紹介やバウムからのステップアップの仕組みが機能していることに加え、地域の就労継続支援B型からの紹介や特別支援学校の進路選択など利用に至る経緯が多様化し、ここ数年安定して新規利用者の確保が行われている。28年度も新規利用が6名、月平均在籍者が約7名と、概ね安定した経営が行われた。しかし、定員の10名に達しておらず、定員割れの状態は5年に渡っている。利用者確保のための新たな試みとしてパンフレットの作成を企画したが、28年度は実施できなかった。

就労移行支援事業は自立支援法により新しく生まれた事業であり、発展途上の段階にあるといえる。よって、前述のように構造的に幾つかの課題を持っているが、更に27年度から新たに就労継続支援B型利用者のアセスメント業務が加わり、また一つ難しい課題が生じた。短時間で評価を行わなければならない、適切な評価を行う環境が整備されていないうえ、移行支援事業所が評価を行うことの妥当性も見つけにくい。また、特別支援学校在校生の場合の進路指導との関連についても疑問を持たざるを得ず、困惑している状況にある。このような中、28年度も10名の評価を行ったが、果たして適切な評価であったかどうか正直自信が持てないところである。この業務をいかに充実させていくか、就労移行、定着支援、経営安定というテーマを中心に据えながら、同時に考えていかなければならない。

## 2 事業概要

- 1) 施設名           ワークセンター夢の樹
- 2) 事業種別       就労移行支援
- 3) 所在地           東京都小平市大沼町2-1-3
- 4) 運営主体       社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員       10名
- 6) 利用現員       6名（平成28年3月31日現在）
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成20年 4月 1日
- 9) 職員           4名（平成28年3月31日現在）  
                  管理者 1名

サービス管理責任者 1名（兼務：常勤換算1.0）  
職業指導員 1名（常勤換算1.0）  
生活支援員 2名（常勤換算1.3）  
就労支援員 1名

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現。  
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。  
安心と希望のもてる生活。
- 4 基本方針 個々に合った活動・実践的訓練  
情報、訓練方法等の共有  
計画的支援（計画→実行→評価→計画の見直し→実行）  
訓練・相談・求職活動の一体的支援
- 5 実施事業（活動内容）
- 1) 就労支援事業  
銀の皿メニュー表帳合作業  
銀の皿はし・しょうゆセット作り  
銀の皿しゃもじセット作り  
切手の仕分け作業  
受注作業（ダイレクトメール等）
  - 2) 外部実習  
エコプラザ  
株式会社ユニマツト  
市役所実習  
市役所販売  
多摩済生園清掃実習
  - 3) 企業見学  
株式会社シダックスオフィスパートナー

6 日 課

職員打ち合わせ、作業準備	8：30～ 9：00
朝礼、体操、唱和、あいさつ練習	9：00～ 9：15
清掃	9：15～ 9：30
訓練プログラム（作業）	9：30～12：00
休憩	12：00～13：00
昼礼	13：00～13：05
訓練プログラム	13：05～14：20
休憩	14：20～14：30
訓練プログラム	14：30～16：20
清掃、日誌記入、終礼	16：20～17：00
職員打ち合わせ	17：00～17：30

7 重点課題・目標に対する成果、課題

1) 就職活動の強化

・就職活動時における本人把握と職場環境の分析によるマッチング評価の正確性向上

【成果と課題】

利用者個人に合わせた訓練プログラムの実施し、月に1回以上の面談を行い、訓練内容の振り返りや就職に関する希望を聴取した。会社訪問や職場実習を行った上で、業務内容、対人関

係、通勤の利便性など会社の特徴を利用者と確認するとともに、利用者に対する会社側からの評価をもとにケース検討を実施した。また、利用者の状況や留意事項について丁寧に会社側に伝えることによって、就業前に相互の理解を深める取り組みを丁寧に行った。昨年度以降の就業者8名の内7名が現在のところ就業を継続できている。今後、企業情報を共通項目で整理し、利用者に分かりやすく伝える書式の作成が必要と考えている。

- ・ 定着支援への取り組み

**【成果と課題】**

就職後、6か月間を目途に、月に1回以上会社へ訪問し、本人の様子の確認や職場から話を聞く機会を設けた。6か月経過後、継続して支援が必要な利用者については、就労支援センターと共同で会社訪問や、面談を実施し支援にあたった。状況が安定している利用者は、就労支援センターへ引き継ぎを行っているが、その後の状況は、これまで、就労支援センターに任せてしまい、移行事業所として把握を行ってこなかった。アフターフォローの強化や事業所の支援方法の評価のためには長期就労者の情報把握に取り組む必要がある。

2) 職員の支援能力向上

- ・ 発達障害者の障害特性の理解

**【成果と課題】**

就労・生活支援センターほっと主催の市内就労支援事業所会議、小平就労支援連絡会に参加し、利用者についての事例検討等を行い、実践例から発達障害の特性について学習を行った。

- ・ 就労継続支援B型利用希望者に対する就労アセスメント

**【成果と課題】**

今年度は就労継続支援B型利用希望者10名に対してアセスメントを実施し、全員、B型利用が適当であるとの判断に至った。アセスメント方法は、昨年度と同様のアセスメントを実施し、実際の訓練現場に参加してもらって能力の評価を行う方式をとった。課題を設定したうえで、課題の達成、未達成により評価したが、評価に係る期間が1日と短すぎるということや、プログラム内容が評価に適しているかなど検討が必要な課題は多く残っている。

- ・ 相談技術、制度知識の習得

**【成果と課題】**

障害者職業総合センター主催の職業リハビリテーション研究・実施発表会に職員1名が参加し、一般就労に向けての取り組み方法等を学習した。研修内容については、事業所ミーティングで報告を行い、共有を行った。

3) 安定した利用者の確保

- ・ 市内の就労継続支援B型事業所へのパンフレット配布

**【成果と課題】**

利用者確保のための新たな試みとしてパンフレットの作成を企画したが、28年度は実施できなかった。しかし、事業の安定運営に最低限必要な一日平均利用者数6名は達成することが出来た。定員10名を目標に次年度以降取り組みたい。

8 開所状況

- |         |             |           |   |            |
|---------|-------------|-----------|---|------------|
| 1) 開所期間 | 自           | 平成28年4月1日 | 至 | 平成29年3月31日 |
| 2) 開所日数 | (1) 週開所日数   | 5日間       |   |            |
|         | (2) 開所時間    | 午前9時～午後5時 |   |            |
|         | (3) 年間延開所日数 | 242日間     |   |            |
|         | (4) 平均活動時間  | 8時間       |   |            |

9 利用状況

- |           |        |
|-----------|--------|
| 1) 利用者延人員 | 1,585人 |
|-----------|--------|

- 2) 1日平均利用人員 6.5人
- 3) 体験実習者延人員 94人
- 4) 1日平均実習人員 2.5人
- 5) 実習者実人員 14人
- 6) 企業内実習者延人員 187人
- 7) 就労継続支援B型アセスメント利用人員 10人

10 利用者状況（平成29年3月31日現在）

1) 年齢

- 20歳以上30歳未満 3名
- 30歳以上40歳未満 2名
- 40歳以上50歳未満 1名

2) 障害の状況

- 愛の手帳3度 1名
- 愛の手帳4度 1名（内精神保健手帳所持 1名）
- 身体障害者手帳2級 1名
- 精神保健手帳2級 4名（内愛の手帳所持 1名）

3) 通所手段

- 交通機関利用 3名
- 徒歩等 3名

4) 居住状況

- 管内居住 6名

5) 性別

- 男性 5名 女性 1名

11 利用者工賃

平均工賃 1人 月額 : 7,506円 日給 : 417円

12 就労者の状況・ステップアップの状況等

- 今年度就労者 …… 4名（内離職者0名）
- 今年度ステップアップ者 …… 4名（内就職者0名）

13 就労継続支援B型アセスメント実施状況

今年度アセスメント者 …… 10名（内就労継続支援B型適当者10名）

14 環境の整備

職員、利用者が毎日、室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

15 防災

災害時避難訓練を年3回実施した。